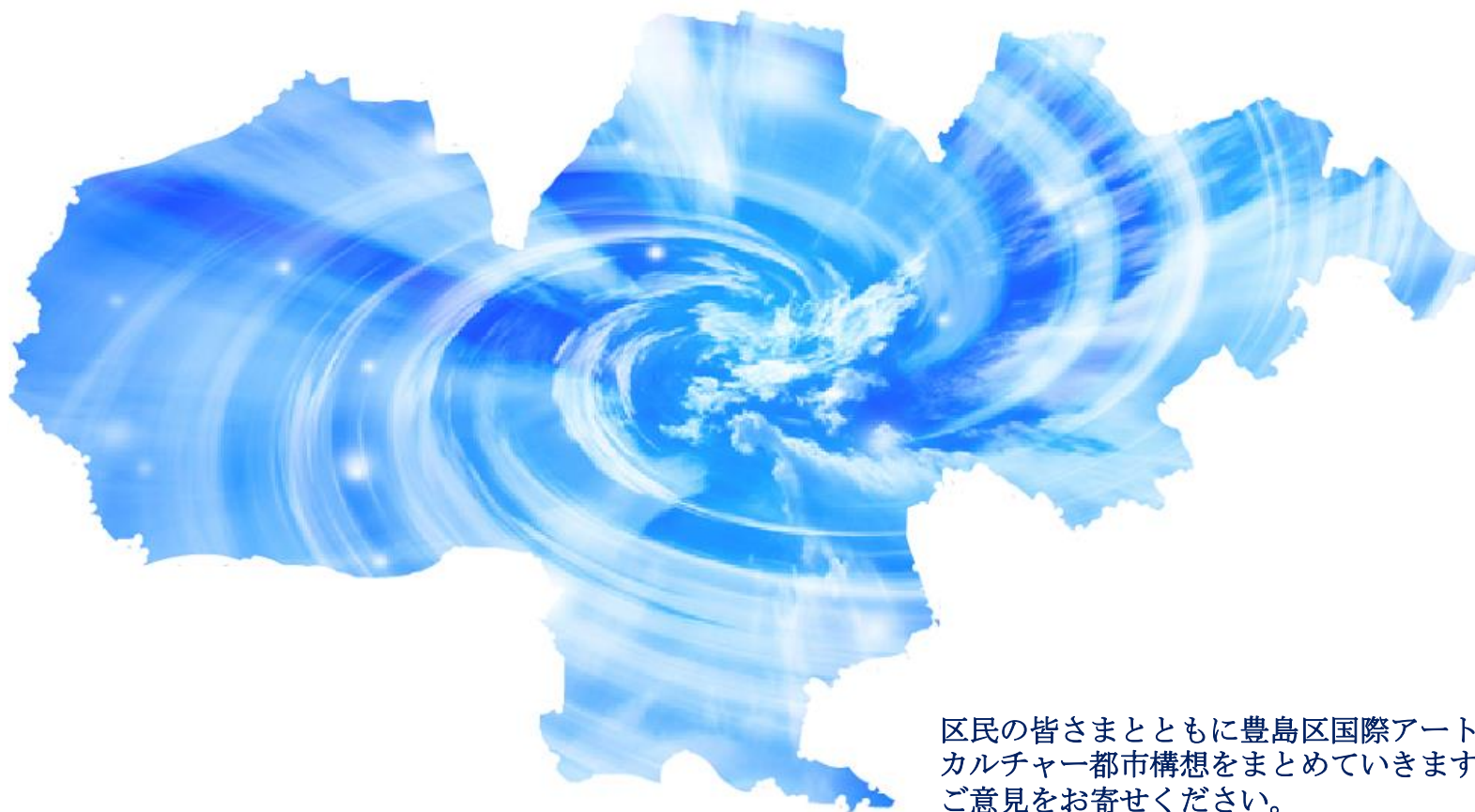


豊島区 国際アート・カルチャー都市構想 (骨子・素材案)

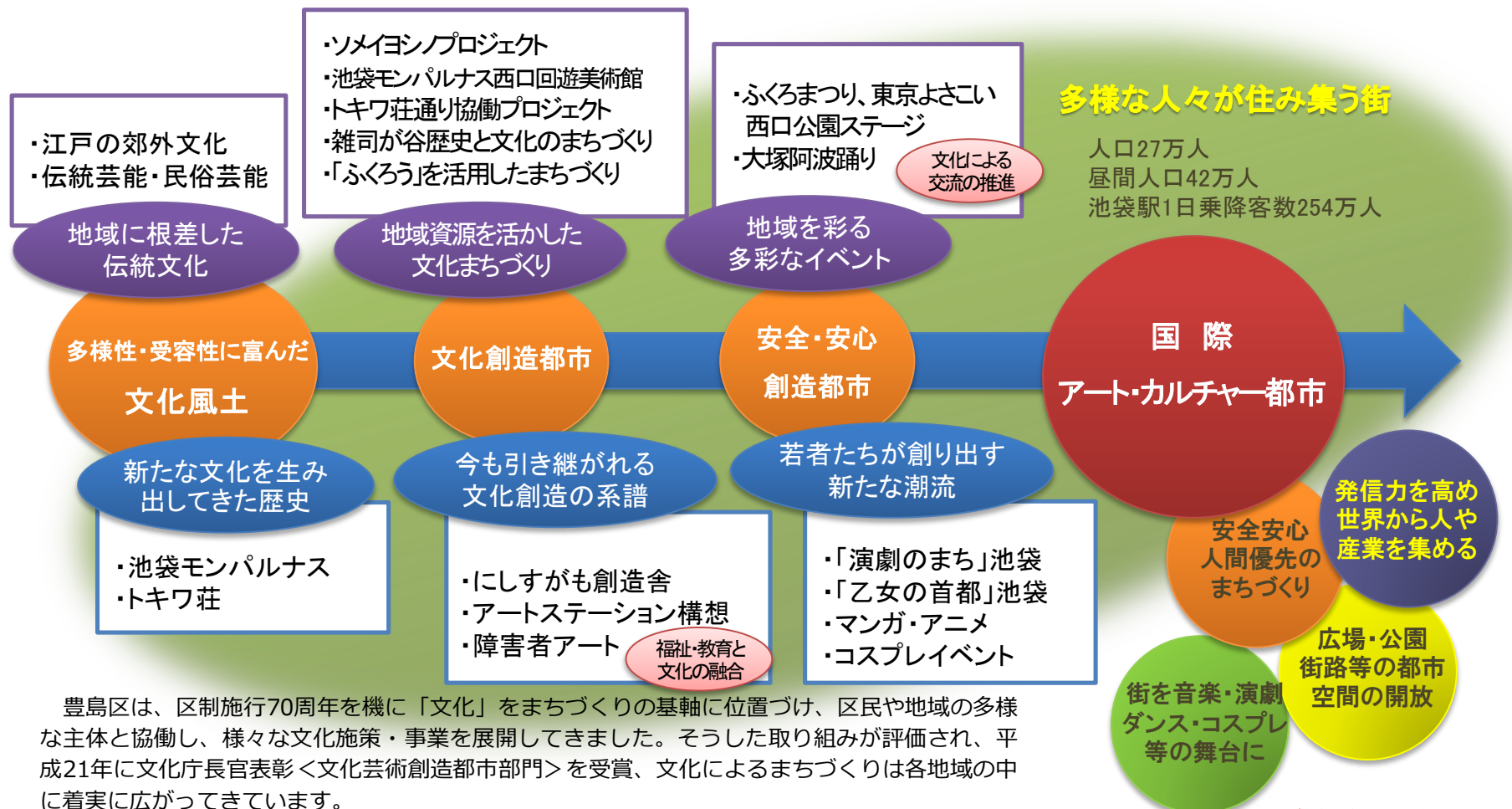


区民の皆さまとともに豊島区国際アート・カルチャー都市構想をまとめていきます。
ご意見をお寄せください。

目 次

1. これからの豊島区のまちづくり ……	2
2. 背景と現状分析	
①地理的背景……………	3
②歴史的背景……………	4
③文化資源……………	5
④3つの潮流 ……	7
3. アート・カルチャー都市づくりのコンセプト	
①基本理念……………	8
②基本方針……………	9
4. 主要なプロジェクト、プロセス ……	10

1. これからの豊島区のまちづくり



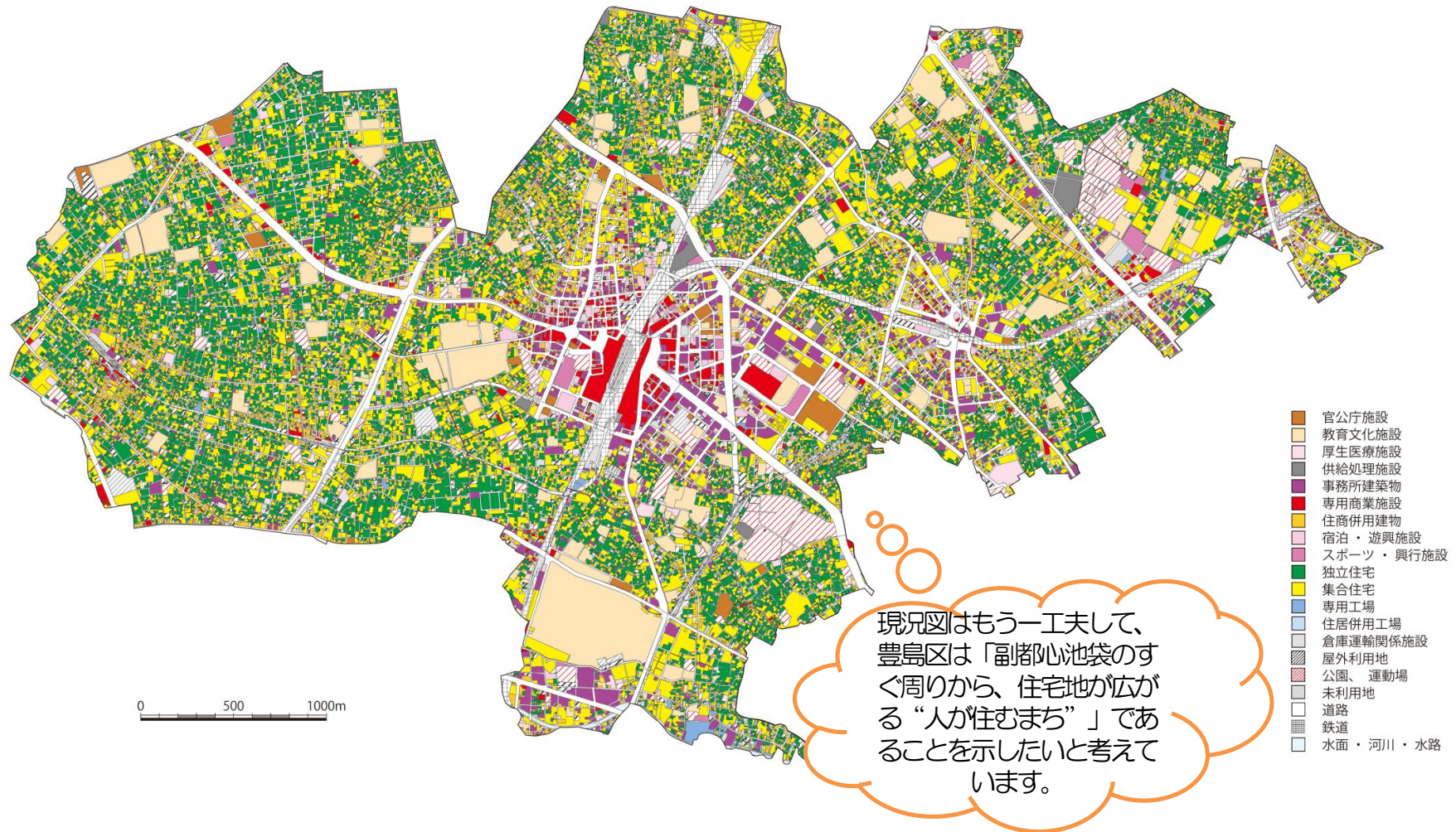
豊島区は、区制施行70周年を機に「文化」をまちづくりの基軸に位置づけ、区民や地域の多様な主体と協働し、様々な文化施策・事業を展開してきました。そうした取り組みが評価され、平成21年に文化庁長官表彰〈文化芸術創造都市部門〉を受賞、文化によるまちづくりは各地域の中に着実に広がってきています。

また、区制施行80周年には、WHO協働センターが推進する「セーフコミュニティ」の国際認証を都内で初めて取得し、区民、事業者、行政が一体となった安全・安心まちづくりの推進を図っています。

こうした区民との協働によるまちづくりの集大成として、誰もが安全・安心に文化を楽しめる人間優先のまちづくりを推進し、さらに世界に向けて新たな文化を発信し続ける魅力と活力にあふれた「国際アート・カルチャー都市」をめざします。

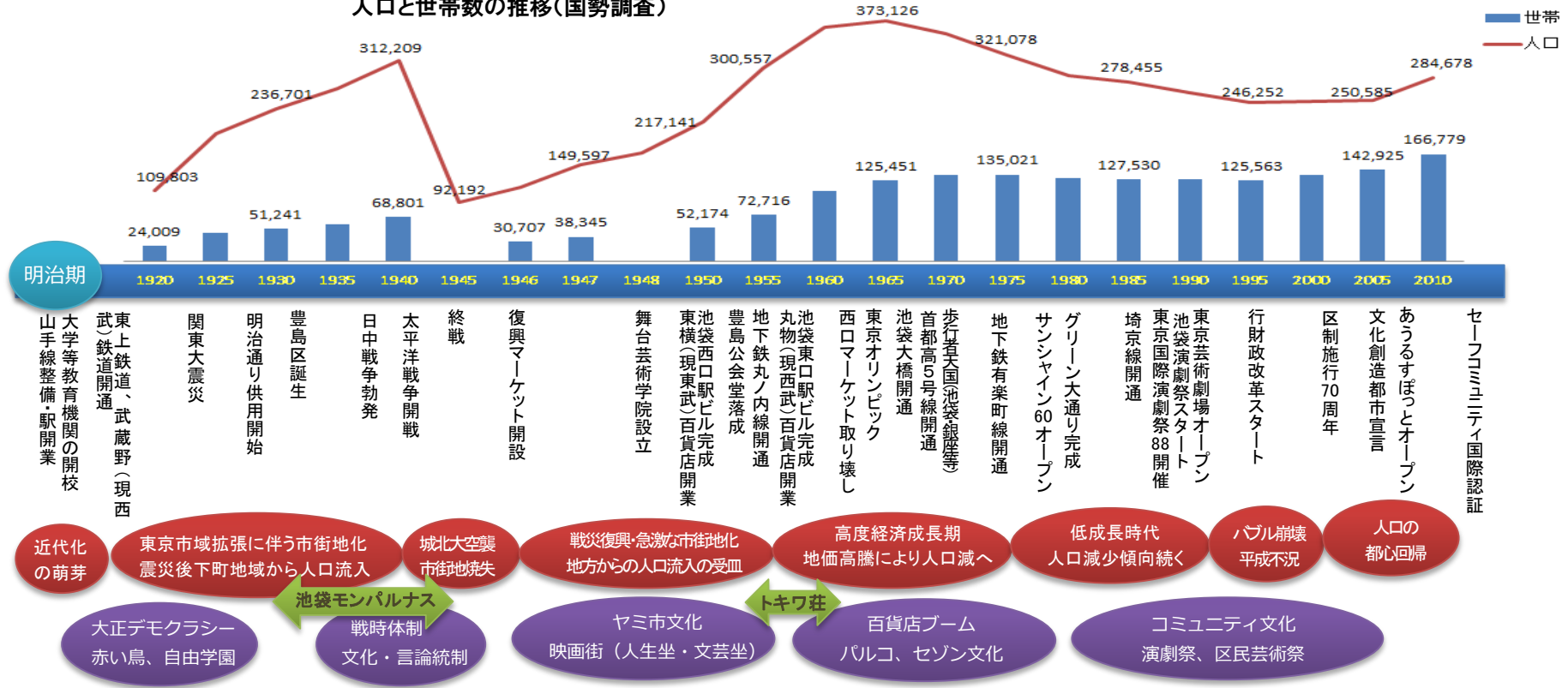
**世界中の誰もが主役になれる
リアルな劇場都市**

土地利用の現況(区全体)



2. 背景と現状分析 ②歴史的背景

人口と世帯数の推移(国勢調査)



○鉄道網の発達、大学等の教育機関の開設が市街地化を促進

○東京への人口流入の受皿として発展

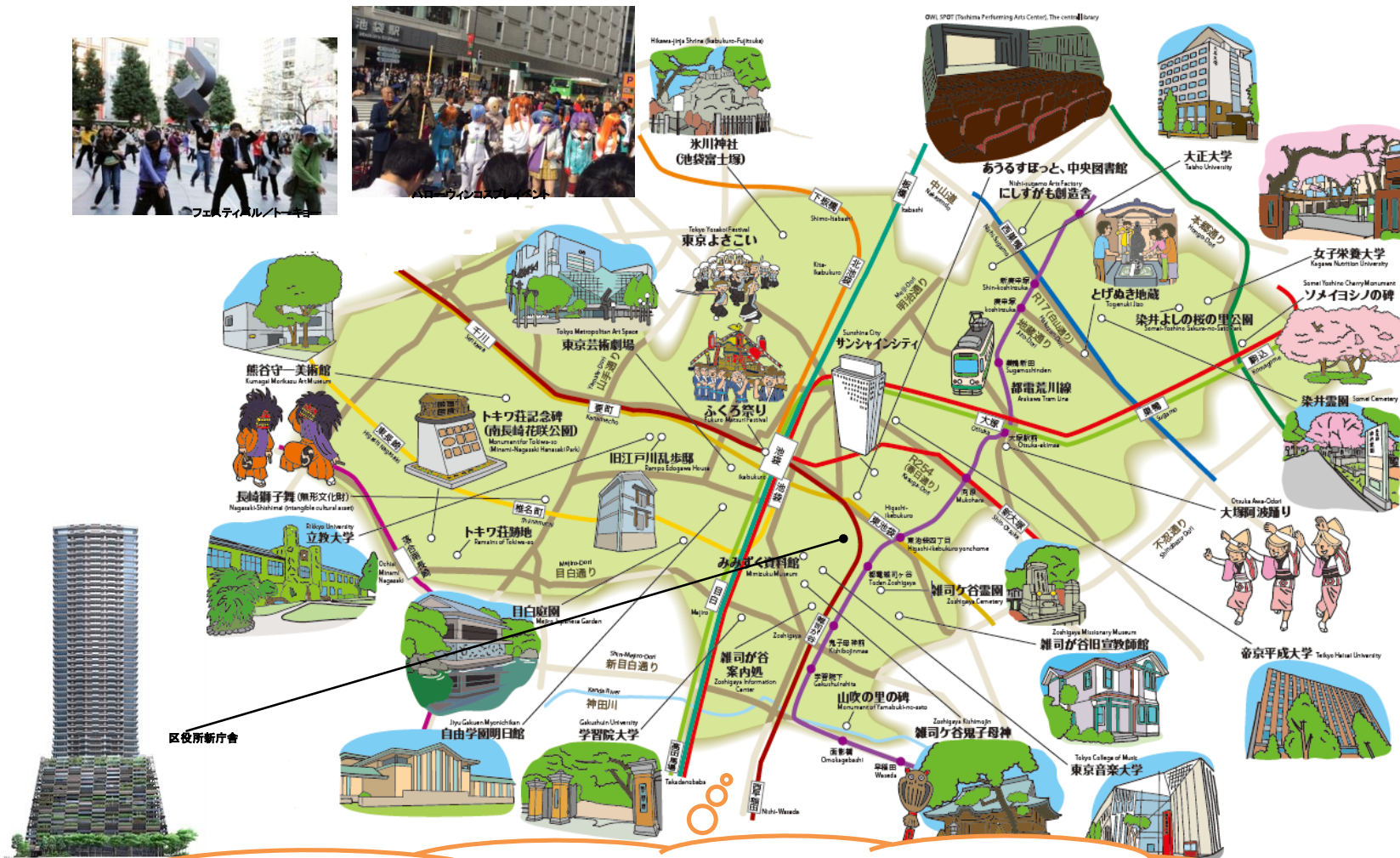
○急激な人口増に対応し高密な住宅地形成

○繁華街池袋を形成した戦後ヤミ市のエネルギー

○時代を映す多様な文化の変遷

2. 背景と現状分析 ③文化資源（豊島区全域）

豊島区 文化資源 マップ



池袋だけでなく、区内には多様な表情を持つ個性的なまちがあること、多様な歴史的資源や区民の皆さんによる文化活動が繰り広げられていることを示したいと考えています。追加したい活動・資源などをあればお知らせください。

2. 背景と現状分析 ③文化資源（池袋エリア）

豊島区の顔である「池袋」をスームアップして多様な文化活動・資源の紹介をしたいと考えています。
追加したい活動・資源などがあればお知らせください。



2. 背景と現状分析 ④ 3つの潮流

○文化政策の国際的な動向～文化を触媒とした都市づくり～

世界では、文化が「都市が変化するための触媒」として位置づけられています。

例えば、EU各国で取り組まれている「欧州文化首都」は、経済的、政治的な結合を強めるEU諸国における「多様性の中の統合」という理念の下で、毎年、都市を選定して年間を通じて様々な文化芸術に関するイベントが実施されています。観光客、宿泊客の増加といった直接的な効果のほかに、都市インフラの整備、クリエイティブ産業の集積、雇用の拡大、都市イメージの向上、街に対する市民の誇り・愛着の高揚などの波及効果が指摘されています。

○日本の成長戦略 ～マンガ・アニメなどクールジャパンで日本の魅力を発信～

日本は、人口減少社会、超高齢社会に世界の中でいち早く直面している「課題先進国」ですが、世界に先駆けてこうした課題を克服できれば新たな成長分野で世界のトップに躍り出ることもできるのではないのでしょうか。

そうした新たな成長分野の一つとして注目されているのが、日本文化すなわちクールジャパンです。

マンガ・アニメやコスプレといったジャパン・ポップカルチャーをはじめとして、ユネスコの無形文化遺産に登録された和食、伝統的な技法が生かされたものづくりや見た目もよくおいしい農産物、日本酒など、日本の伝統を見直して、今、国を挙げて世界にアピールしていこうとしています。

○首都東京の一員として

～グローバルビジネス都市東京～

東京都は、日本経済の機関車として、世界に開かれたグローバルビジネス都市へ大改造を進めようとしており、国際的ビジネス環境整備に向けて、都心型MICE※などのビジネス拠点の整備、及び滞在環境の整備による都市観光の推進を図ることとしています。

また、2020年、スポーツと文化の祭典である東京オリンピック・パラリンピック大会が開催されますが、2016年リオ大会の閉幕と同時に、東京大会に向けたオリンピック文化プログラムが幕を開け、都内はもとより全国各地で文化芸術関連の事業が展開されることが予定されています。

※MICEとは、Meeting(企業系会議)、Incentive(企業の報奨・研修旅行)、Convention(国際会議)、E:Exhibition/Event(展示会・見本市、イベント等)を総称した造語です。

アート・カルチャー都市構想は、これまで区民の皆さんと共に進めてきた豊島区のまちづくりの延長線上にありますが、国際的動向や日本全体、東京全体の動向とも合致しています。



3. アート・カルチャー都市づくりのコンセプト ①基本理念

○多様性を活かしたまちづくり

豊島区は人口27万人、昼間人口42万人を超える人が住み、集い、日々活動する高密都市であり、地域ごとに多彩な表情を持つ都市です。

そうした多様性に彩られた豊島区がめざす国際アート・カルチャー都市は、伝統的な文化から最先端の文化まで、ハイカルチャーからサブカルチャーまで、ジャンルを超えて多様な文化が共存する世界に例を見ない「文化融合都市」です。

○出会いが生まれる劇場空間

豊島区に住む人も、このまちを訪れる人も、誰もが安全・安心に文化を楽しみ、観客となり、時には主役となって文化を体感できる「リアルな劇場都市」をめざします。そして、街路や公園・ひろばなどの都市空間をそうした劇場空間に見立てて、様々な表現活動の場として開放することにより、多様な文化が出会い、交流できる、空間的にも心理的にもバリアフリーな「場」を創出していきます。

○世界とつながり人々が集まるまち

そうした多様な文化の「出会い」と「交流」を広く世界に発信することにより、世界に豊島区の魅力をアピールし、世界中からも多様な表現者たちが集まり、さらに新たな出会い・交流が生まれるまちをめざします。

文化を触媒として、バーチャルだけではなく、リアルに世界とつながり、新たな文化潮流を常に発信し続ける魅力と活力にあふれた都市…それこそが、豊島区がめざす「国際アート・カルチャー都市」です。

豊島区の最大の武器は「多様性で懐が深い」ことではないでしょうか。区民の皆さんやアーティストたちが自由に表現できる空間整備を進め、文化活動の一大拠点として広く世界にアピールしていきたいと考えています。

多様性を活かした
まちづくり

出会いが生まれる
劇場空間

世界とつながり
人々が集まるまち

国際
アート・カルチャー
都市

3. アート・カルチャー都市づくりのコンセプト ②基本方針

国際アート・カルチャー都市構想の3つの基本理念を実現していくため、それぞれ以下の方針に基づき、区民、NPO、大学、企業等、地域の多様な主体と連携・協働し、ソフト・ハード両面での施策を総合的に展開していきます。

多様性を活かした まちづくり

- 既存の文化資源、文化活動の連携（オールとしまの魅力発信）
- 新たな文化の受容（アーティスト支援、表現活動の場の提供）
- 総合的な文化プログラムの展開（オリンピック文化プログラム）

出会いが生まれる 劇場空間

- バリアフリーな都市空間の整備（歩行者優先、無電柱化）
- 劇場空間としての都市空間の開放、規制緩和（公園、ひろばの劇場化）
- エリアマネジメントによる都市空間の活用（民間活用、多様な主体の協働）

世界とつながり 人々が集まるまち

- 世界に向けた発信力強化（多様なメディアの活用、リアルとバーチャルの融合）
- 豊島区からの日本文化発信（区民の多様な文化活動からクールジャパンまで）
- 観光インバウンドの整備（多言語化、無料公衆Wi-Fi整備）
- 「おもてなし」の推進（文化・観光ボランティアの育成）

4. 主要なプロジェクト、プロセス

○文化を愛する区民、事業者、アーティストなどが主役のプログラム展開

国際アート・カルチャー都市づくりは、文化を愛し、活動する区民、NPO、大学、企業等地域の皆さんが生き生きと活動し、表現する場を整備しようとするものです。

みんなの力で具体的なプロジェクトを練り上げ、豊島区発の日本文化を世界に向けて発信しましょう。

○間近に迫るオリンピック文化プログラム

2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に向けてオリンピック文化プログラムが始まるのは、2016年リオ大会の閉幕直後です。そのため、今後設置予定の国際アート・カルチャー都市懇話会を中心に具体的な検討に着手します。

表現者として、ボランティアとして… 参加の方法は色々です。オール豊島で、文化プログラムを盛り上げていきましょう。

○文化活動の舞台、国際的なおもてなしの舞台としての空間整備の推進

駅前広場、公園、現庁舎地周辺整備、無電柱化などに取り組み、国籍、年齢、性別などを問わず、誰もが安心して四季を感じながらゆっくりと散歩を楽しむことができ、自由に表現活動を行うことができる歩行者優先の空間づくりを進めます。

また、誰でも母国にいるのと同様に、快適に過ごすことができるよう多言語対応サイネージ、公衆無Wi-Fiなどの基盤整備を進めます。

